



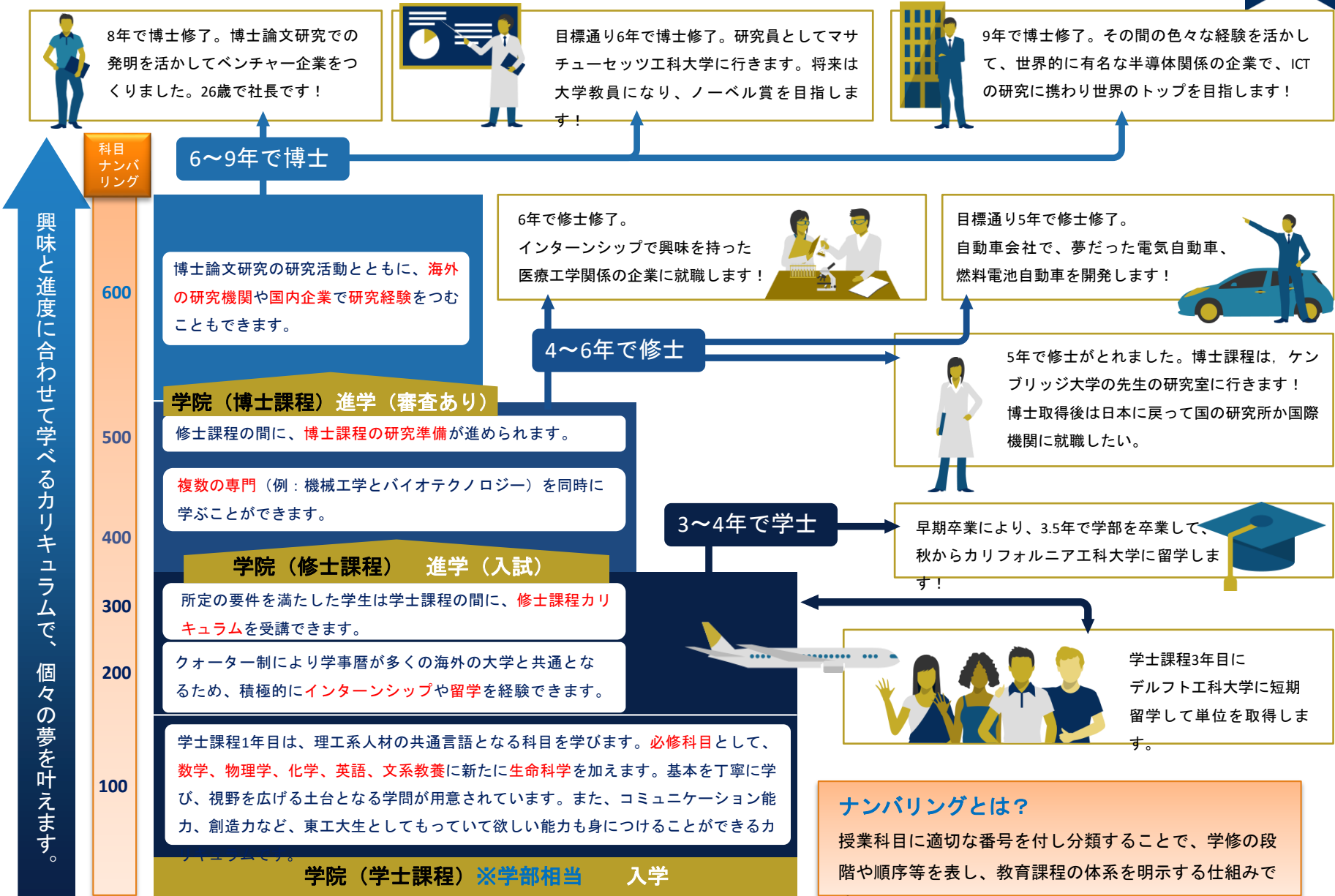
Tokyo Tech

東京工業大学 工学院 保護者説明会

副工学院院长 藤田英明

令和3年 4月2日

入学から卒業・修了まで



初年次教育（1年次）

学び創るこころを育てる

- 視野を広げる基礎知識の修得

文系教養、英語、数学、物理学、化学、生命科学

- 創造への第一歩

工学リテラシー、科学・技術の創造プロセス

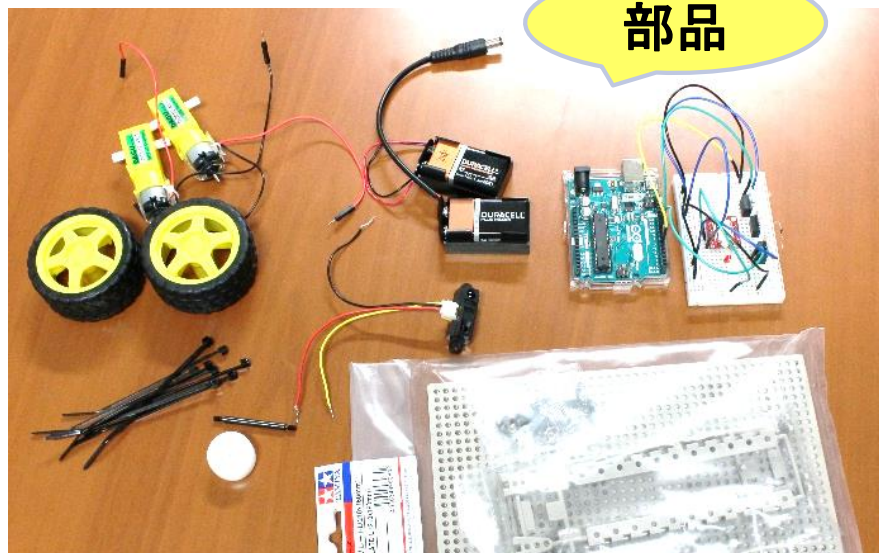
- 自ら学ぶマインドの醸成

- ◆科学・技術の最前線

- ◆東工大立志プロジェクト

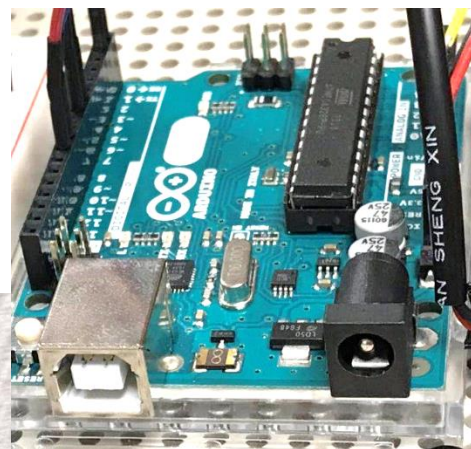
工学院リテラシの一部(マイコン搭載ワイヤレス自動車)

- 車を作成しながら電気電子の知識を学習



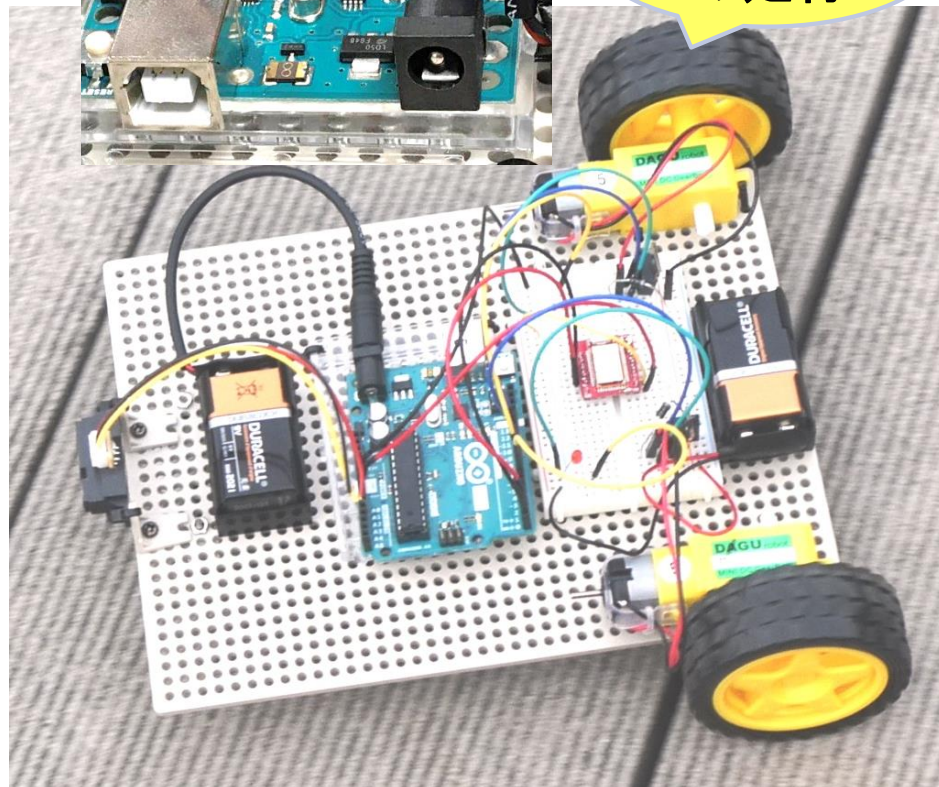
部品

- 自分でプログラムを書くので, 自由に走行モードを変えられる!!

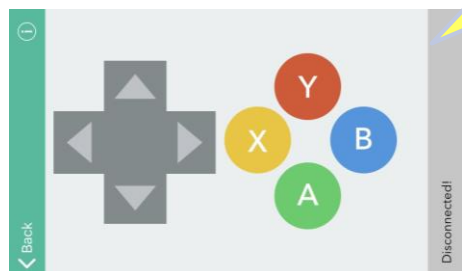


マイコン

本館前での走行



スマホで
ワイヤレス
接続



さあ!
レース

系所属（2年次）

2年目からは工学院の系に所属して専門を学修

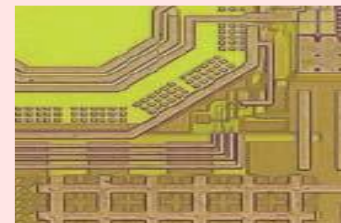
機械系

新たな現象、原理、方法を発見し、環境と人類との調和をなす新しい機械の創造を目指します



電気電子系

多様化・高度化するエネルギー技術、エレクトロニクス、通信技術等の幹となる部分を教育・研究します



システム制御系

自然と社会における「もの」と「こと」を客観的に解析し、価値のあるシステムを創造します



経営工学系

企業経営や経済を取り巻く社会の課題を科学的・工学的な視点から解決します



情報通信系

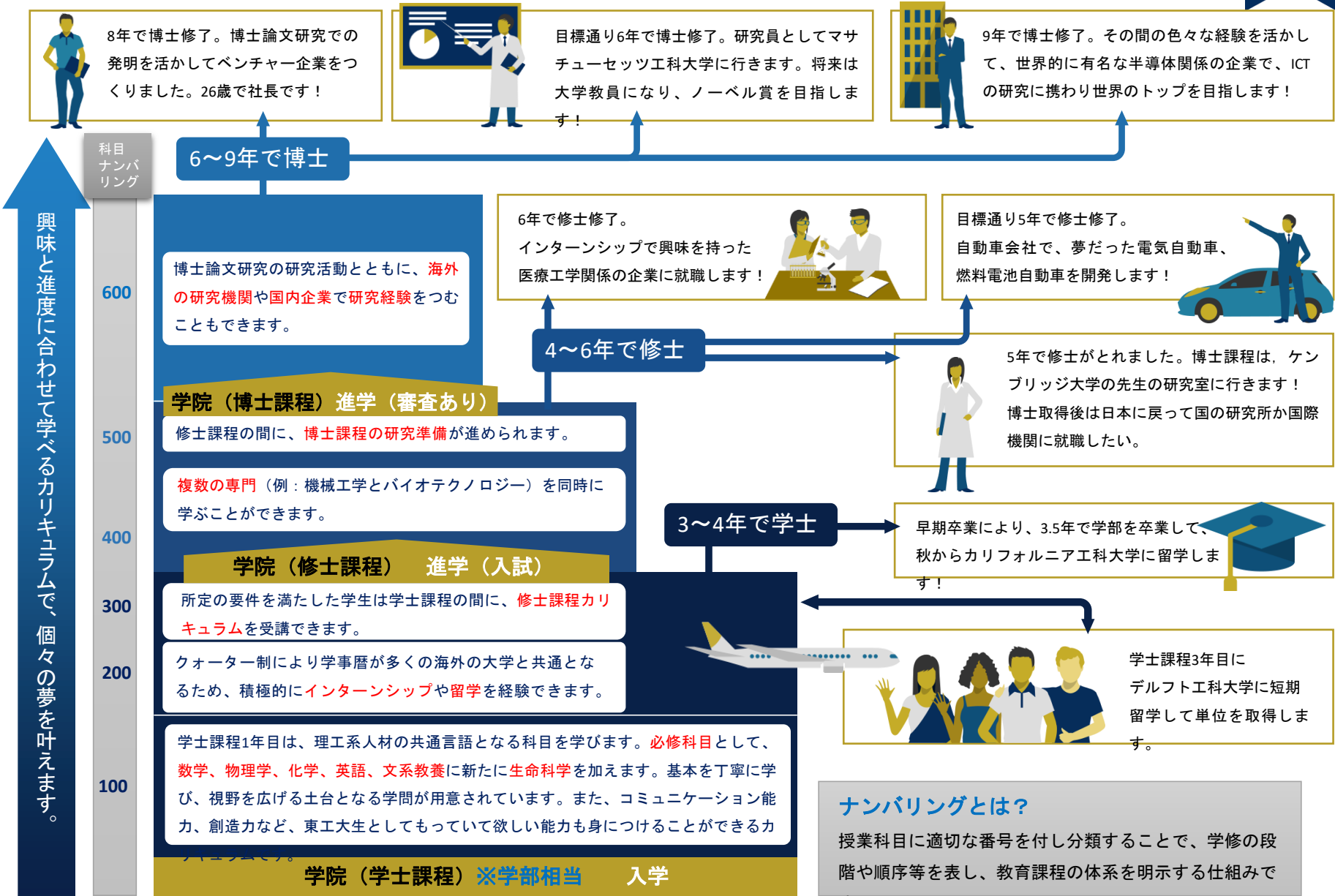
人に優しい高度情報通信社会を支える基盤技術・応用システムを研究します



研究室所属・学士特定課題研究(4年次)

- 研究プロジェクト(学内インターンシップ:3年次)
- 研究教育の開始(研究の中での学び)
 - ◆研究室に所属して研究指導を受ける。
 - ◆4年次の半年間(前学期もしくは後学期)
 - ◆学士特定課題研究報告書(学位論文)の執筆
 - ◆学士特定課題プロジェクト
更に深く広い研究教育のために

入学から卒業・修了まで



ナンバリングとは？

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系を明示する仕組みです。

留学（全学）



短期（1年以内）



27プログラム

派遣先

タイ、インド、ドイツ、
オーストリア、アメリカ、
スウェーデン、スリランカ
など

長期（1年以上）



6プログラム

派遣先

中国、韓国、
フランスなど

派遣交換留学



70大学

派遣留学先

アメリカ、カナダ、フランス、
スイス、イタリア、ドイツ、
イギリス、オランダ、ベルギー、
オーストラリア、韓国、中国、
インドネシア、ベトナムなど

インターンシップ



7プログラム

派遣先

日本国際学生技術研修
協会（IAESTE）加盟
国87か国など

※プログラム、派遣大学数：2016年10月現在

※留学中に海外で取得した単位は、東工大に持ち帰ることも可能！

グローバル理工人育成コース

大学院課程修了後に新興国を含む世界でリーダーシップを発揮できる人材を育成すべく、学士課程卒業後に大学院課程において国際水準の教育研究活動を行い得る、高度な能力を身に付けさせることを目的として学士課程に設置されたコースです。

4つのプログラム

- 国際意識醸成プログラム
- 英語力・コミュニケーション力強化プログラム
- 科学技術を用いた国際協力実践プログラム
- 実践型海外派遣プログラム



「日本の東工大から世界のTokyo Techへ」

【目的】 詳細：[入学案内より抜粋（夢を叶える東工大での学び方）](#)

研究室でトップクラスの研究を行い、理工系人材のパスポートである博士学位を取得して自由自在なキャリアから自分の道を選択し、学問を究めることを目的としています。

【養成する人材像（DP）】 詳細：[本学HPトップ》東工大について》東工大の方針》東工大教育ポリシー](#)

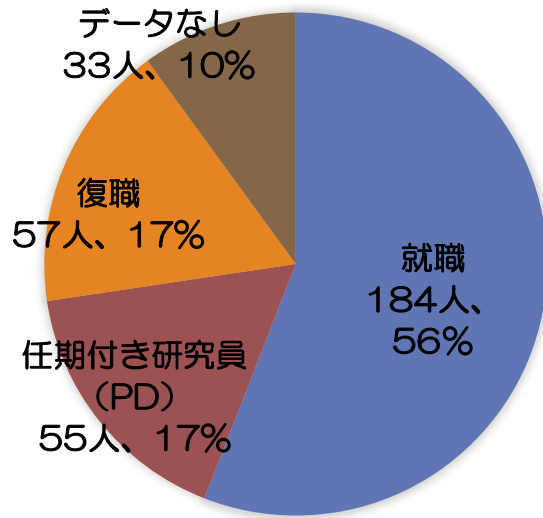
より良い社会を構築できる科学技術のフロンランナー

博士後期課程では、卓越した専門力、並びに、国際的な場で実践できる教養、そして、社会に対して論理的に説明でき、リーダーシップを発揮できる力を身に付け、限界を設けず挑戦し本質や普遍性を見抜いて、新たな知の発見、価値の創造及び発信ができる人材を養成します。

【求める人材像（AP）】 詳細：[本学HPトップ》東工大について》東工大の方針》東工大教育ポリシー](#)

幅広い専門力、並びに、国際的に通用する教養、そして、多様な考えをまとめることができる力と科学技術の深奥を究めようとする探求力を身に付け、実践的な物事に取り組むことができる人材を求めます。

博士修了者進路割合

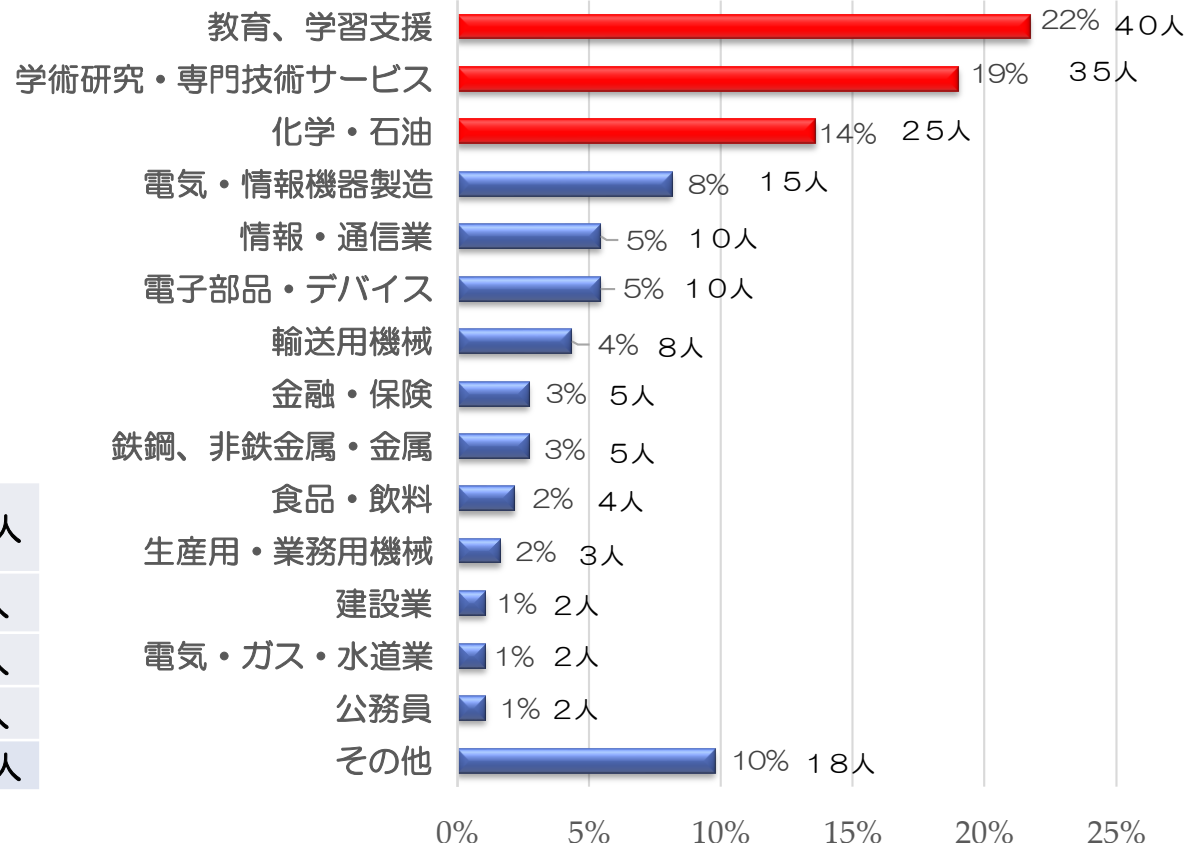


就職 (大学教員・企業・研究所等)	184人
任期付き研究員 (ポスドク等)	55人
復職	57人
データなし	33人
合計	329人

※ 主な就職先 (人数の多い順)

大学 (国内) 25人 大学 (海外) 11人 三菱電機 4人 旭化成 3人 日本原子力研究開発機構 3人
 国立環境研究所 3人 日産自動車 3人 理化学研究所 2人 日立製作所 2人 昭和電工 2人
 日本電気 2人 三井化学 2人 三菱重工 2人 他

< 博士修了者 就職先 (業界) >



博士は教育 (大学等) や学術研究・専門サービス業が多く、
 専門を活かす傾向。メーカーでは化学関係の業界での採用が活発。

B2D特別選抜

「早くから研究を始めたい」という学生の皆さんからの声に応え、新たに開始する学修スキーム（仕組み）です。
学士2年次から博士学位を目指す，研究への熱意がある学生を応援することが目的です。

※「B2D」とは…学士（**B**achelor）**2**年次から博士（**D**octor）取得／進学を目指す学生のための本学独自の用語です。

B2D特別選抜 4つのメリット

①2年次から
研究開始

②早く希望研究室を
決められる

③通常とは異なる
カリキュラムも可能

④留学の費用援助

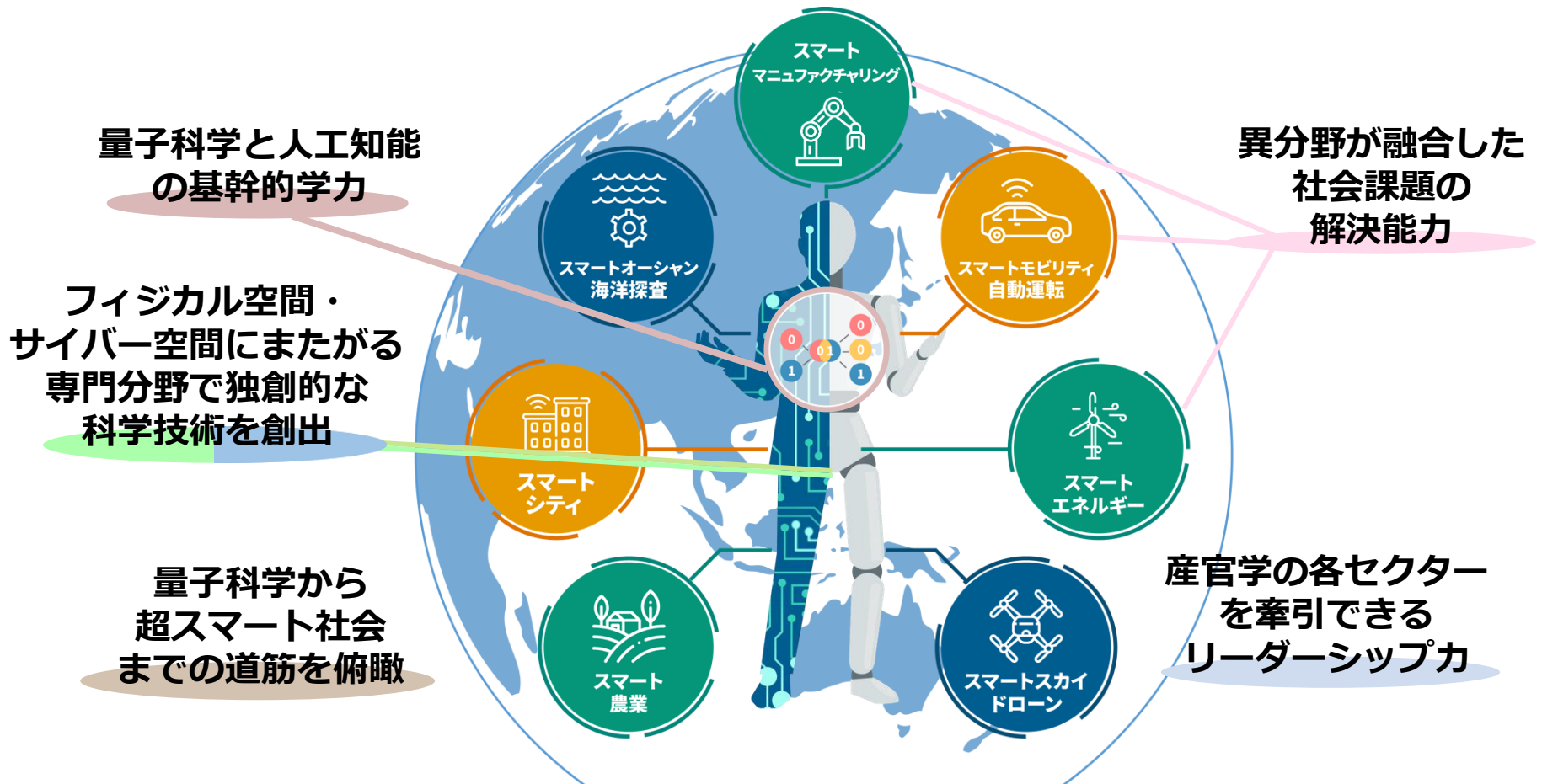
本学独自の博士の奨学金制度

東京工業大学つばめ博士学生奨学金

- 2019年4月に創設
- 博士後期課程の学生に、標準修業年限である3年間支給（返還不要）
- 一般奨学金 年額 480,000円
- 特別奨学金 年額 635,400円
 - ✓ 特に優秀な学業成績・研究業績等を修めた学生（2～3年次の全奨学生の20%程度）に対して、一般奨学金の代わりに特別奨学金を支給

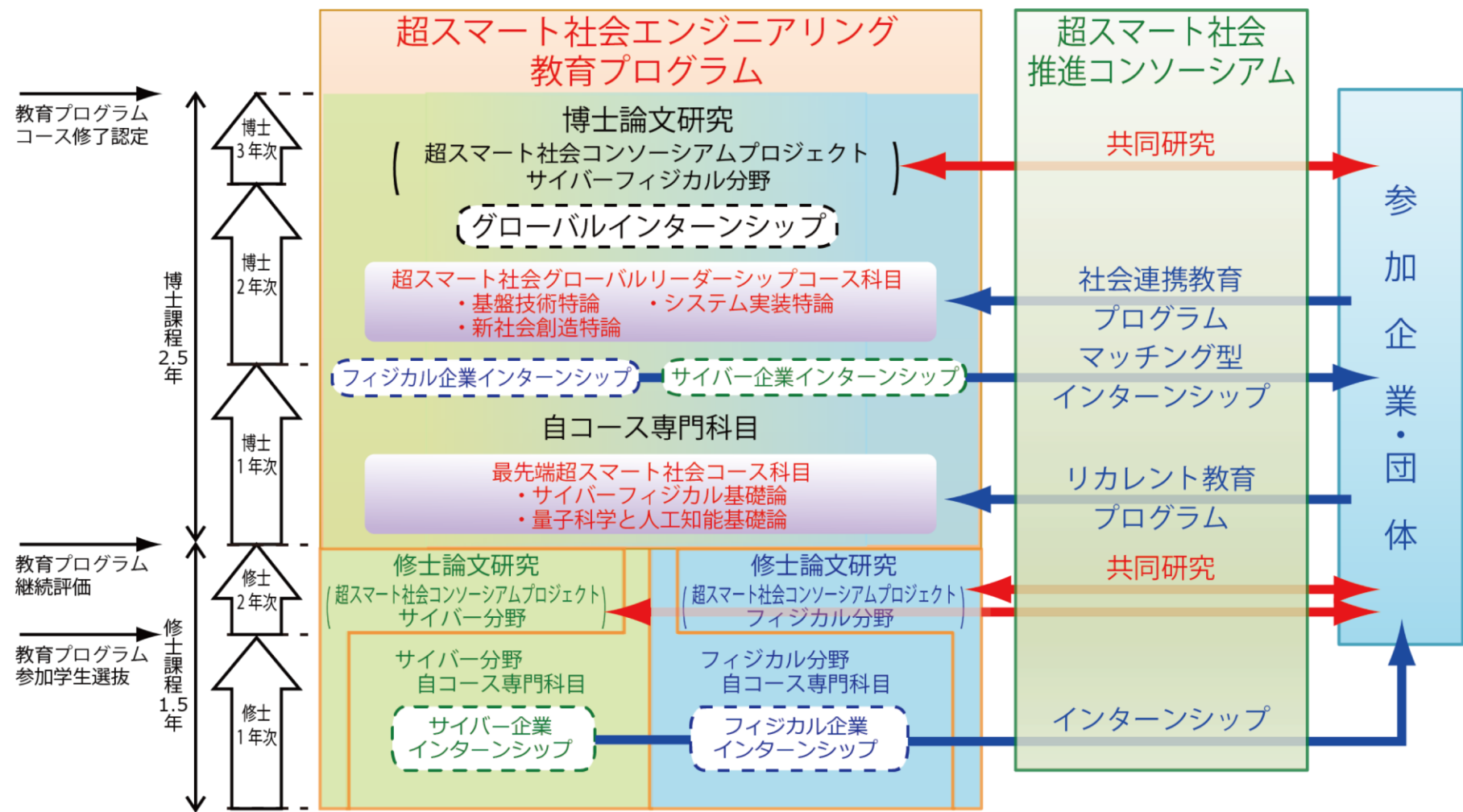
超スマート社会卓越教育院

必須能力 = (サイバー空間技術 + フィジカル空間技術) × 量子科学



超スマート社会卓越教育プログラム

コンソーシアムを介した人材の育成と採用の支援



超スマート社会博士リーダーシップ奨励金

超スマート社会卓越教育プログラム履修者は、
博士後期課程学生全員に支給される「東京工業
大学つばめ博士学生奨学金」に加えて

- **超スマート社会創造研究プロジェクト**
 - 特に独創的と認める博士後期課程学生の研究プロジェクトには、上限200万円/年のRA経費を支給
- **超スマート社会基盤技術研究プロジェクト**
 - 特に独創的と認める修士課程学生の研究プロジェクトには、上限50万円のRA経費を支給



Tokyo Tech Front 東工大蔵前会館



東京工業大学博物館・百年記念館



工学院教育充実のためのご寄付のお願い

工学院では、すべての所属学生が最高の環境でコースワークと研究室での研究に打ち込めるように、工学院教育の充実に使途を特定した工学院教育基金を設立しています。この基金は、工学院学生の保護者の皆様、工学院のOB・OG、教員、連携企業など工学院ファミリーのご寄付で成り立っています。

この寄付は完全に任意のものです。ご子息・ご息女様の入学時、進学時などいつでも結構ですので、工学院学生の学びと研究機会の拡大に向け、ご支援を頂ければ幸いです。

本学ホームページ「東工大への寄付」ページ内の「寄付メニュー：学院をダイレクトに応援する」からご寄付頂くことが可能です。

<https://www.titech.ac.jp/giving/>



工学院基金の主な使途

- 工学院の提供する教育プログラムの充実と高度化
- 大学の海外留学プログラムに参加学生の渡航支援
- 工学院所属学生の自由かつ野心的な研究活動の支援
- 工学院学生の研究成果等の製品化や事業化等の支援

相談窓口について

学生相談室

修学や将来のこと等、気軽に相談できるところです

学修コンシェルジュ

学生の皆さんが、入学から卒業までの学修上の悩みや、
の解決に向けてサポートします

工学院 新入生向け情報
<https://www.e.titech.ac.jp/fresh/>

生活や対人関係、メンタルの相談

アカデミック

工学院 新入生相談窓口メール
eng@fresh.titech.ac.jp

進路に関する相談や指導を行います

電話相談デスク

相談窓口に行きにくい場合は、電話でも相談できます

ピアサポート

学習のことから学生生活まで先輩に何でも質問できます



Tokyo Tech

**ご静聴ありがとうございました
ご子息・ご息女の充実した大学生活を
東工大がサポートいたします**

